

# 2014年度 事業報告書

青少年委員会 委員長  
桑原 望

## 1. 事業内容

- (1) 会員拡大
- (2) 新年会の設営（1月）
- (3) 担当例会（4月）
- (4) フェニックス事業（6月、7月、8月）
- (5) 第44回ブロック大会（9月）

## 2. 所感

大人が変われば子供も変わります。子供が変われば未来が変わります。「子は親を映す鏡」の言葉の通り、心豊かに成長するためには身近な親や大人の影響が大きいと言えます。私たち青少年委員会では、この言葉を大切に一年間全ての活動を行ってきました。だからこそ、三回連続の100%委員会の達成も成し遂げることが出来ました。

まず、年初に新年会の設営を行いました。長岡 JC の事業の中で唯一失敗が許されないのが新年会と聞いたこともあり、大きなプレッシャーがありました。設営するにあたり、ご来賓や特別会員の皆様との交流を特に重視しました。終わってみれば、一年の始まりに新年会を委員会として設営出来たことは名誉なことでありました。

次に、4月例会では、公開例会として「尊敬できる大人へ～大人が変われば子供も変わる～」を開催しました。最も印象深いのは、対外参加者募集の活動です。より多くの人に来てもらうために、子育てサークルを訪問し PR を行い、子育ての駅ではチラシを手配りました。対外の方をお招きするのは容易ではありませんが、明るい豊かな社会を創るためには、避けて通れないことだと思います。講師に羽賀友信先生、佐竹直子先生をお招きしご講演いただきました。メンバーが実際の子育て世代からアンケート調査を行ったことによって、講師の魅力をより引き出すことが出来たと自負しております。

そして、フェニックス事業です。2014 年度は、フェニックス花火の打ち上げ開始から 10 年という節目の年でありました。これは、同時に 7.13 水害や中越地震から 10 年ということでもありました。そんななか、フェニックス花火に関する事業として、フェニックス協賛金事業、そしてフェニックス継承事業の二つの事業を行いました。協賛金事業だけでもやったこととして、学生などの市民ボランティアの募集、7月募金、花火当日募金、交流会の実施、そして LINE スタンプの作成と販売などでありました。継承事業では、小学校での児童に対する事業、フェニックス絵本動画作成、宮城県石巻市大学生を招いての活動、と両事業ともかなりの活動となりました。大規模な事業となりましたが、一貫していたのは「みんなであげようフェニックス」の理念を市民に、若者に、そして東北の被災地にと広げていくことでありました。協賛金事業では、過去最高の街頭協賛金額を達成し、LINE スタンプなど新しい資金源の開発もすることができました。10 年で節目と言われ、今後の打ち上げは未定とのことだったフェニックス花火ですが、私たちの活

動は、今後の打ち上げに大きく貢献したと思っております。また、継承事業で、震災を知らない長岡の小学生にフェニックス花火の理念を伝えることが出来たのは、10年後20年後のフェニックス花火だけでなく、長岡の街の発展についても大きな意味があると思っております。フェニックスの理念を広げていくことは、私自身の使命としてこれからも取り組んでいく所存です。

最後になりますが、私にこのような成長の場を与えてくださった佐田直人理事長に心より感謝を申し上げます。多忙にも関わらず、私ども青少年委員会を暖かく見守ってくださった瀧川室長、担当副理事長でありフェニックス副部長である深見副理事長、このお二人の力がなければ乗り切ることは出来ませんでした。厳しくも暖かいご指導くださいましたスタッフの皆様をはじめ、全メンバーの皆様に感謝申し上げます。そして、私を支えてくれた委員会スタッフ、妥協せずにとことんやってくれたチーフをはじめとする委員会メンバーの皆様のおかげで、私は、私らしく委員長を務めることができた事に感謝申し上げ、委員長所感とさせていただきます。